

# Briefing Transcription

|| 2025 年 6 月期第 2 四半期決算説明会文字起こし ||

## 東洋ドライループ株式会社

4976 東証スタンダード市場 化学

[企業情報はこちら >>>](#)

2025 年 3 月 12 日 (水)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## ■ 目次

■ 出演者	01
■ 決算説明	02
■ 質疑応答	16

## ■ 出演者

東洋ドライループ株式会社  
代表取締役

飯野 光彦様

東洋ドライループ株式会社  
取締役 管理部長

鈴木 茂生様

東洋ドライループ株式会社  
管理部財務経理課長

近藤 弘基様

## ■ 決算説明



### ■ 東洋ドライループ 飯野

みなさま、こんにちは。東洋ドライループ代表取締役の飯野です。本日は、当社の決算説明会にご参加いただきありがとうございます。スライドの目次に沿ってご説明します。

### I. 東洋ドライループの概要

2024年12月31日現在

商号	東洋ドライループ株式会社
代表者	代表取締役社長 飯野 光彦
所在地	〒155-0032 東京都世田谷区代沢 1-26-4
設立	1962年7月31日
資本金	375百万円
従業員	503名(連結)
事業内容	ドライループ(固体被膜潤滑剤・特殊機能性被膜)の製造 新製品の開発・コーティング加工 ドライループの販売及び輸出入 加工技術の指導
事業拠点	国内：東京本社、技術開発センター(神奈川)、群馬事業部、愛知事業部 国内連結子会社：長野ドライループ株式会社、大分ドライループ株式会社 株式会社真永 海外連結子会社：(中国) 広州德来路博科技有限公司 (タイ) DRILUBE (THAILAND) CO., LTD. (ベトナム) DRILUBE VIETNAM CO., LTD. 持分法適用関連会社：(中国) 広東省中山市、江蘇省昆山市に計2社

東洋ドライループの概要です。特に内容について変わったところはありませんが、スライド中段の従業員数が514名だったものが11名減って503名となっています。

東洋ドライループ株式会社 | 2025年3月12日(水)  
4976 東証スタンダード市場 化学

決算説明

沿革

1962年7月	当社設立(資本金5,000千円)、米国Drilube社(現: All Metals Processing社)の販売代理店として、同社のドライループ製品の輸入販売開始
1975年4月	神奈川県相模原市に橋本研究所完成、ドライループ製品の製造を開始
1980年8月	東京都世田谷区に本社新築完成
1982年8月	神奈川県相模原市に相模原工場完成、ドライループ製品のコーティング加工事業を開始
1985年3月	群馬県太田市に太田工場完成
1987年3月	神奈川県相模原市に相模原第二工場完成
1989年3月	愛知県春日井市に愛知工場完成
1989年10月	神奈川県愛甲郡愛川町に神奈川工場・研究所完成、相模原工場・同第二工場を集約、橋本研究所移転
1998年8月	愛知県春日井市に愛知新工場完成、愛知工場を移転
2002年6月	中国広東省中山市の中山市三民金属処理有限公司に資本参加
2003年3月	品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証取得
2004年8月	群馬県太田市に群馬工場完成、太田工場を移転
2004年8月	中国江蘇省昆山市に合弁会社、昆山三民塗料電子材料技術有限公司を設立
2004年10月	環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得
2006年8月	昆山三民塗料電子材料技術有限公司の工場設備竣工、操業を開始
2008年1月	中国広東省広州市に広州徳来路博科技術有限公司を設立
2008年2月	ジャスダック証券取引所に上場(証券コード: 4976)
2010年7月	タイ国チョンブリー県にDRILUBE (THAILAND) CO., LTD. (ドライループ・タイランド)を設立
2012年5月	DRILUBE(THAILAND)CO.,LTD.(ドライループ・タイランド)の新工場用途物件を取得
2013年3月	ベトナム社会主義共和国ハナム省にDRILUBE VIETNAM CO.,LTD.(ドライループ・ベトナム)を設立
2019年4月	長野県上伊那郡筑前町の長野ドライループ株式会社を連結子会社化
2020年7月	大分県中津市に大分ドライループ株式会社を連結子会社化
2023年3月	静岡県焼津市にある株式会社真水永を連結子会社化
2024年12月	大分ドライループ株式会社の第二工場を取得

沿革です。スライド最下段に、昨年 2024 年 12 月に、子会社である大分ドライループ株式会社の第二工場を取得したことが追加となっています。

製品(ドライループ)の基本機能

ドライループとは、二硫化モリブデン・フッ素樹脂・グラファイトなどの潤滑物質と各種特殊バインダーをハイブリットに配合し、各種溶剤 又は水に分散させた有機結合型の多機能被膜。

・ドライループでコーティング加工することにより、各種素材の摩擦係数を大幅低減。  
・耐摩耗性に優れているため、潤滑機能が求められる様々な部品に適用可。

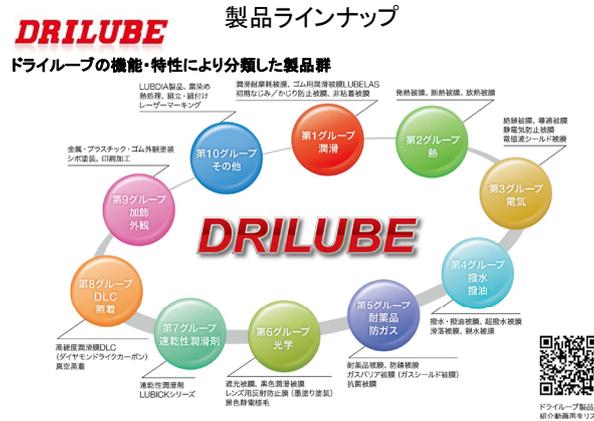
<p><b>二硫化モリブデン</b></p> <p>(加工対象機器) ワイヤーブレードのフロントガラスとの摩擦部、キャブブレードのバルブ部、ポンプのゴム密封部等の高摩耗・低摩擦性、非粘着性等の性能が要求される自動車機器、電子機器等</p>	<p><b>フッ素樹脂</b></p> <p>(加工対象機器) 燃料供給系等の自動車機器の主要部、パワーステアリングシステム等の自動車部品、電子機器のキーボード・パルススイッチ等の低摩耗・高耐久性、非粘着性等の性能が要求される自動車機器、電子機器、OA機器等</p>	<p><b>グラファイト</b></p> <p>(加工対象機器) ワイヤーブレードの駆動支持部の軸受け、CD-DVDプレーヤーの駆動部、デジタルカメラのズーム・シャッターの駆動部、カメラレンズの光学部等の高摩耗・低摩擦・非粘着性等の性能が要求される自動車機器、光学機器、電気・電子機器等</p>
---	---	---

ドライループの製品の基本的な機能をご説明します。「ドライループ」は、社名でもあり製品名でもあります。ドライが乾燥、ループが「Lubricants」の略で、つまり潤滑です。

通常、潤滑というとウェットなオイル・グリースを連想されるかと思いますが、私どもはいろいろな潤滑物質、いろいろな機能を持ったものを被膜化しました。ウェットなものが使えないようなところで被膜を使って、潤滑などの機能を発揮させる製品を市場に投入しています。

非常にたくさんありますが、主な成分として、スライド左端の二硫化モリブデン、二硫化タングステン、中央のフッ素樹脂、シリコン樹脂、右端のグラファイト、窒化ホウ素等の潤滑物質を配合し、お客さまのニーズに応える被膜を作っています。

決算説明



製品のラインナップです。スライド中央の上にある赤い丸が第1グループで、先ほどご説明した潤滑被膜です。こちらが私どものメイン商品で、自動車や光学業界に限らず、さまざまな産業界で採用されています。みなさまの身の回りのいろいろな製品の中で採用されています。

第2グループは、熱関連の製品です。被膜で発熱させる、被膜で断熱させる、被膜で放熱させるといった熱関連の機能被膜です。採用例はまだ多くありませんが、潜在的にはいろいろ採用されるべきところがあると思います。

第3グループは電気関係で、絶縁・導通・電磁波シールドなどの機能を持った被膜を用意しています。自動車のEV関連などに引き合いが増えているのが現状です。

第5グループは耐薬品で、かなり強い薬品に対して保護をする膜です。自動車関連で採用が増加しています。

第6グループは光学業界で、交換レンズやボディの上の部分、後ろ側にあるモニターを乗せている部分、カメラの中のシャッター関連、ズームの中の絞り関連といったところで使われています。レンズの場合は、オイル・グリースが使えないこともあり、いろいろなところで採用されています。

第7グループは速乾性の潤滑剤で、工業用の速乾性潤滑剤として販売されています。当社の1つの工場では、月に数千万個の小さなスイッチ関係の部品に加工しています。

第8グループは少し硬い膜で、ダイヤモンドライクカーボン、アモルファスカーボンを素材の上に形成するものを市場に投入しています。

第9グループは外装・内装、特に内装関係において、高級な外観を形成するところで採用されており、この事業が今伸びているところです。

決算説明

ドライループの採用例



「ドライループ」の採用例です。スライドには自動車機器、電子部品、光学機器、その他を記載しています。自動車機器では内燃機関、その周辺機器の駆動伝達関係、制御機器など、さまざまなところで採用されています。

電子部品では、スイッチやマイクロモーター、ゲーム機器などに採用されています。光学機器に関しては、先ほどご説明したとおりです。

II. 2025年6月期第2四半期の業績

2025年6月期第2四半期の連結業績について報告します。

東洋ドライーブ株式会社 | 2025年3月12日(水)  
4976 東証スタンダード市場 化学

決算説明

2025年6月期連結業績サマリー

売上高・利益額・利益率ともに前期比増加。ほぼ期首予想通り。

単位: 百万円、%

	2024年6月期 第2四半期		2025年6月期 第2四半期							
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		期首予想		期首予想比	
					増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	2,354	100.0	2,566	100.0	212	9.0	2,515	100.0	51	2.0
営業利益	375	15.9	421	16.4	46	12.3	379	15.1	42	11.1
経常利益	416	17.7	518	20.2	102	24.6	496	19.7	22	4.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	315	13.4	358	14.0	43	13.6	377	15.0	△19	△5.0
1株当たり当期純利益	238.84		271.12		32.48	13.6	284.95		-△13.83	△4.9
1株当たり配当金 (円)	27.00		36.00		9	33.3	36.00		0	-

※(期中平均株式数) 24年6月期:1,324千株、25年6月期:1,324千株

- 1.自動車部品と光学機器の売上高が前期比増加。
- 2.減価償却費増を吸収し、生産性アップにより増益を確保。

2025年6月期第2四半期の連結業績です。売上高が25億6,600万円で前期比2億1,200万円増加し、9.0パーセントの増収でした。営業利益は4億2,100万円前期比12.3パーセント増、経常利益は5億1,800万円、前期比24.6パーセント増となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は3億5,800万円、前期比13.6パーセント増となりました。自動車部品と光学機器において、売上は前期比増という結果でした。原価高騰時代と言われており、当社も労務費、電力費、原材料費等、原価に関わるすべての費用が大幅に増加しましたが、売上の増加と生産性を向上させたことにより、製造原価増加の影響を抑制することができました。

採用先別連結売上高

2025年6月期 第2四半期 採用先別売上高構成比



- ドライーブ事業
  - 自動車:エンジン関連の部品は減少したが、内装・外装部品と電装・電子部品が好調。
  - 光学機器:高級デジタルカメラ交換レンズが好調。
  - 電子部品:好調な分野と不調な分野が混在。

単位: 百万円、%

採用先	2024年6月期 第2四半期		2025年6月期 第2四半期					
	金額	割合	金額	割合	前期比		増減率	
					増減額	増減率	増減額	増減率
自動車	1,296	55.1	1,382	53.9	86	6.6		
光学機器	488	20.7	557	21.7	69	14.1		
電子部品	308	13.1	299	11.7	△9	△2.9		
その他	261	11.1	327	12.7	66	25.3		
合計	2,354	100.0	2,566	100.0	212	9.0		

採用先別連結売上高です。スライド左上の円グラフのとおり、自動車が全体の53.9パーセントを占めています。2024年6月期の55.1パーセントから53.9パーセントと、比率は若干下がりましたが、売上は前期比6.6パーセント増と、8,600万円ほど増加させることができました。

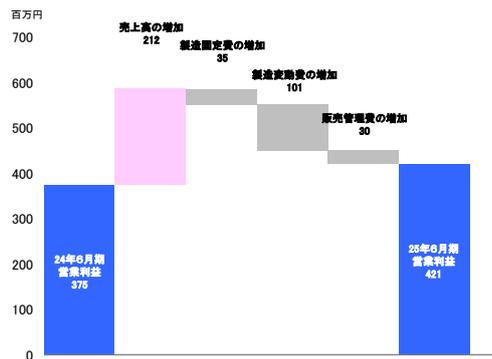
光学機器は、カメラ本体および交換レンズの生産量が好調に推移した結果、売上高が5億5,700万円、前期比14.1パーセント増と6,900万円ほどの増収となりました。一方、電子部品はゲーム機およびスイッチ類が低調で、前期比で2.9パーセント減、900万円減少しました。

東洋ドライーブ株式会社 | 2025年3月12日(水)  
4976 東証スタンダード市場 化学

決算説明

自動車に関して少し補足すると、私どもでは自動車を6つの分野に分類しています。その他を含めると7分野です。エンジン本体そのものに関しては大きく減少していますが、エンジンの制御機器関連や駆動部品関係、内装・外装関係が増加したことにより増収となりました。

営業利益分析



営業利益の分析です。営業利益は前年第2四半期が3億7,500万円であったのに対し、売上高の増加が2億1,200万円、製造固定費の増加が3,500万円です。これは、労務費と設備投資による減価償却費の増加によるものです。

製造変動費は、売上高の増加に比較すると、率としては増えている状況です。販売管理費は前年とほぼ変わらない状況になっています。結果として、営業利益が4億2,100万円と5,000万円近くの増益となりました。

連結損益計算書

単位:百万円、%

	2024年4月期 第2四半期		2025年4月期 第2四半期		前年比		主な要因等
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
売上高	2,354	100.0	2,566	100.0	212	9.0	自動車事業系 86百万円増 化学機械事業系 10百万円増 その他 16百万円増
売上総利益	928	39.4	1,004	39.1	76	8.2	
販売管理費	553	23.5	583	22.7	30	5.4	
営業利益	375	15.9	421	16.4	46	12.3	
営業外収益	47	2.0	111	4.3	64	136.2	
営業外費用	6	0.3	13	0.5	7	116.7	為替差損 6百万円増
経常利益	416	17.7	518	20.2	102	24.6	
特別利益	64	2.7	13	0.5	△ 51	△ 79.7	国庫補助金収入 51百万円減
特別損失	80	2.5	13	0.5	△ 47	△ 78.3	固定資産圧縮損 47百万円減
税金等調整前当期純利益	420	17.8	519	20.2	99	23.6	
親会社株主に帰属する当期純利益	315	13.4	358	14.0	43	13.6	

連結の損益計算書です。売上高は前期比9.0パーセント増加で、営業利益は前期比で2桁の増加率です。

営業利益に関しては3億7,500万円から4,600万円増加し、4億2,100万円でした。営業外収益は、持分法による投資利益が6,100万円増加したことで、前期比136.2パーセント増の1億1,100万円となりました。

経常利益の特別利益においては、国からの助成金が5,100万円減少、特別損失においては、固定資産圧縮損が、4,700万円の減少となりました。

東洋ドライーブ株式会社 | 2025年3月12日(水)  
4976 東証スタンダード市場 化学

決算説明

最終的に、税金等調整前当期純利益が5億1,900万円、親会社株主に帰属する当期純利益が3億5,800万円となりました。

連結貸借対照表

単位: 百万円, %

	2024年6月期末		2025年8月期		2025年8月期		主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	前期末比 増減額	増減率	
資産合計	12,012	100.0	12,458	100.0	444	3.7	
流動資産	6,375	53.1	6,498	52.2	121	1.9	・現金及び預金 46百万円増
有形固定資産	3,742	31.2	3,933	31.6	191	5.1	・土地 160百万円増
無形固定資産	50	0.4	44	0.4	△ 6	△ 12.0	
投資・その他の資産	1,843	15.3	1,981	15.9	138	7.5	・関係会社出資金 173百万円増
負債合計	2,407	20.0	2,414	19.4	7	0.3	
流動負債	1,675	13.9	1,613	12.9	△ 62	△ 3.7	・未払金 117百万円減
固定負債	731	6.1	800	6.4	69	9.4	・長期借入金 36百万円増 ・退職給付に係る負債 31百万円増
純資産合計	9,604	80.0	10,042	80.6	438	4.6	

※自己資本比率: 2024年6月期=79.9%、2025年6月期=80.6%

連結の貸借対照表です。資産合計が前期末比4億4,400万円増加し、3.7パーセント増、124億5,600万円でした。持分法会社の利益増加により関係会社出資金が1億7,300万円、子会社の土地が1億6,000万円増加しました。

一方、負債合計は前期末比700万円増の24億1,400万円でした。銀行借入金の借り換えにより流動負債が6,200万円減少し、固定負債が6,900万円増加しました。

純資産の合計は、前期末比4億3,800万円増の100億4,200万円となりました。

連結キャッシュフロー計算書

単位: 百万円, %

	2024年6月期 第2四半期	2025年8月期 第2四半期	主な要因等
営業活動による キャッシュフロー	765	522	・未払消費税等の減少 ▲172百万円
投資活動による キャッシュフロー	△ 650	△ 407	(前期)有形固定資産の取得による支出 549百万円 (今期)有形固定資産の取得による支出 379百万円
財務活動による キャッシュフロー	△ 67	△ 2	
現金および現金同等物の 期末残高	4,036	4,304	
フリーキャッシュフロー	115	115	

連結キャッシュフロー計算書です。営業活動によるキャッシュフローは2億4,300万円減少しました。未払消費税等の減少1億7,200万円が主な原因となっています。投資活動によるキャッシュフローはマイナス4億700万円となりました。有形固定資産の取得による支出3億7,900万円が主な原因となっています。

決算説明

取得した有形固定資産の内訳は、大分の第二工場、愛知の生産設備、子会社の長野ドライーブの資産です。財務活動によるキャッシュフローはマイナス200万円となりました。現金および現金同等物の期末残高は43億400万円で、2025年6月期第2四半期はフリーキャッシュフローが1億1,500万円となっています。

### Ⅲ. 今後の事業展開

#### 1. 新製品の開発

#### 2. アジア・グローバル展開

今後の事業展開、新製品の開発とアジア・グローバル展開について説明します。

#### 事業活動のイノベーション

区 分	概 要	
1. 製品開発	① 配合技術	配合設計技術の改善と革新。 ⇒新機能製品開発と用途開発
	② 分散技術	分散技術の改善と革新。
2. 加工生産	③ 加工技術	新たなコーティング手法の開発。 ⇒ロボット・AI・IoT技術導入
	④ 品質管理	品質保証体制の刷新。
3. 営業(販売)	⑤ 既存市場	既取引先の次世代商品開発への関与 並びに新機能コーティング被膜の積極提案。
	⑥ 新規市場	ドライーブ未採用業界への機能性被膜アピール。
	⑦ 海外市場	中国及びASEAN諸国へ進出した日系企業 並びに外資企業・内国企業への営業活動。

今後の事業展開です。新製品の開発とアジア・グローバル展開についてご説明します。事業活動のイノベーションとして、今後の展開についてご説明します。製品開発に関しては、研究開発センターにおいて、新製品の開発が実施されています。

薬品を配合する技術と、分散しにくいものを分散させる技術の2つが当社のコアな技術となっています。新規原材料を調達し、新製品を開発していますが、お客さまからテーマをいただいて開発しているものが7割から8割を占めています。その他、自社製品として独自に開発しているものもあります。

加工生産におけるコーティング加工の受託ですが、この分野においては品質の高いもの、生産量の多いものを安定してお客さまにお届けすることが大きなテーマとなっています。

決算説明

加工生産に関しては今現在、ロボット化あるいは画像検査 AI を工場の中に取り入れながら、生産性と品質の向上に力を入れている最中です。1人当たりの売上高をしっかりと上げていこうと取り組んでいます。

営業活動に関しては、既存市場である自動車関連における拡販、光学関係業界における拡販に加え、新規事業への拡販活動を行っています。また、そのような市場開拓の動きを海外にも展開することで、営業活動を拡大しているところです。

1. 新製品の開発

新製品名	機能/特性	進捗状況
発熱被膜 (薄膜コーティングによる面状ヒーター)	面全体を同時かつ均一に発熱させます。 複雑な形状でも容易に施工できます。 凍結防止から250℃までの広い温度帯を制御できます。	知財権取得済み。各種評価進展中。 融雪、霜取り、曇り止め、調理などヒーターとして営業展開。
LUBICK®シリーズ (フッ素系速乾性潤滑剤)	金属・樹脂・ゴム等に塗布するだけで薄膜のフッ素被膜を容易に形成します。 生産インラインなどで安全で簡単に塗布できます。	新製品を開発して採用展開中。
LUBELAS®シリーズ (ゴム用弾性潤滑被膜)	ゴムの伸縮に追従します。 ゴム表面に潤滑性、非粘着性などの機能を付与します。 ほぼ全てのゴム素材に対応可能です。	ゴムメーカー各社の製品開発に賛同中。 耐摩耗性に優れた新開発コーティング剤が自動車業界で採用。
非粘着性被膜	金属・樹脂の表面に非粘着性を付与する被膜です。 接着剤・接着テープなどが貼り付きません。	OA機器向けに量産開始。 営業展開中。
環境配慮型製品 (PFAS不使用のコーティング剤)	PFASをいわずにフッ素系製品同等の低摩擦性を示す製品を開発しました。 (PFAS(有機フッ素化合物)は、化学構造上、自然界では分解されず、長期間残存し続けることが問題視されています)	客先展開中
環境配慮型製品 (水系のコーティング剤)	VOC削減のため、水系のコーティング剤を開発しました。 (VOC(揮発性有機化合物)は、光化学オキシダントやSPM、PM2.5の大気汚染物質の原因の1つです)	客先展開中

新製品の開発についてです。開発してから品質を工夫しながら現在に至っているものが多いのが実情です。例えば発熱被膜は、被膜そのものが発熱する被膜で、現在大口の試験をしている最中です。

スライドの表の一番下には、環境配慮型製品の事例を記載しています。化学物質にはさまざまな規制があり、そのような法律を遵守しながら新製品を開発しています。

また、現在いくつかの大学の研究室と共同研究を実施しています。研究室に資金支援を行い、新製品の開発を共同で実施しています。

表の上から3番目の「LUBELAS」がゴムの伸縮に追従した製品ですが、非常に競争力があることから、市場での販売が広がっており、採用が今増えているところです。

決算説明

2. アジア・グローバル展開

会社名	資本金	持分比率	所在地	概況
広州徳来路博 科技有限公司	252万US\$	100%	中国広東省広州市 南沙区珠江管理区	・ドライルーブのコーティング加工事業を行う。 ・中国景気停滞に伴い巻き返しを計る。
中山市三民金属 処理有限公司	300万US\$	26.2%	中国広東省中山市 小環鎮	・ドライルーブのコーティング加工と金属表面 熱処理事業を行う。 ・営業収入が緩やかに回復してきている。
昆山三民塗頼表面 処理技術有限公司	600万US\$	50.0%	中国江蘇省昆山市 巴城鎮	・ドライルーブのコーティング加工と金属表面 熱処理事業を行う。 ・自動車機器、電子機器、光学機器ともに好調。
DRILUBE (THAILAND) CO.,LTD.	18,300万 THB	99.9%	Tambol Donhuaroh, Amphur Muang, Chonburi Province	・コーティング塗装、黒染め、アルマイ処理、 静電植毛を行う。 ・光学機器、電子部品が好調。
DRILUBE VIETNAM CO.,LTD.	240万US\$	100%	Dong Van II Industrial Zone, DuyTienDistrict Ha Nam Province	・コーティング加工と潤滑剤販売が両輪。

アジア・グローバル展開についてです。拠点は中国に3拠点、タイに1拠点、ベトナムに1拠点です。拠点数はまったく変わっていませんが、一つひとつが力をつけてきていますので、アジアに対して、さらに新たな展開を狙っているところです。

アジア各地での状況について少しご説明します。中国では、子会社を1ヶ所、関連会社を2ヶ所で展開しています。中国では自動車関係が中心ではありますが、ゲームやアミューズメント関係、スマホ関連も仕事を形成しています。

また最近、中国からタイ・ベトナムに仕事がシフトしていくお客さまも見られます。タイに関しては光学関係の受注が過半数を占めており、自動車やバイク関係がその後につながっている状況になっています。

IV. 2025年6月期業績予想

2025年6月期の業績予想について説明します。

東洋ドライーブ株式会社 | 2025年3月12日(水)  
4976 東証スタンダード市場 化学

決算説明

2025年6月期連結業績予想

一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響が解消し、売上高は前年比増加。  
材料費・人件費・電力費・減価償却費が増加して、  
営業利益は前年比微減と見込む。

単位: 百万円、%

	2024年6月期		2025年6月期予想				
	金額	構成比	金額	構成比	前年比 増減額	前年比 増減率	2Q進捗率
売上高	4,899	100.0	4,900	100.0	201	4.3	52.4%
営業利益	654	13.9	631	12.9	△ 23	△ 3.6	66.7%
経常利益	807	17.2	835	17.0	28	3.5	62.0%
当期純利益	617	13.1	625	12.8	8	1.4	57.3%
1株当たり当期純利益	466.23	-	472.77	-	6.54	1.4	57.3%
1株当たり配当金	57.00	-	72.00	-	15.00	26.3	-

今年度 2025 年 6 月期の業績予想です。期初の予想から変更していません。連結業績予想では、売上高 49 億円と前年比若干の増収を見込んでいます。営業利益に関しては、原材料費、人件費、電力費の高騰に加え、設備投資を積極的に行っているため、減価償却費の増加等があります。そのため、前期比で若干の減益を見込んでいます。

一方、経常利益と当期純利益は海外の関連会社の業績回復に伴い、若干の増益を見込んでいます。1株当たり当期純利益は 472.77 円、1株当たり配当金は 72 円を見込んでいます。

採用先別連結売上高予想

2025年6月期(予想) 採用先別売上高構成比



●ドライーブ事業の今期予想

- ・自動車: 内装・外装部品と駆動・安全対策部品が好調。
- ・光学機器: 高級カメラが好調。
- ・電子部品: 複合機と半導体が堅調。

単位: 百万円、%

採用先	2024年6月期		2025年6月期予想			
	金額	割合	金額	割合	前年比 増減額	前年比 増減率
自動車	2,589	55.1	2,657	54.2	68	2.6
光学機器	996	21.2	1,056	21.6	60	6.0
電子部品	580	12.3	589	12.0	9	1.6
その他	532	11.3	597	12.2	65	12.2
合計	4,899	100.0	4,900	100.0	201	4.3

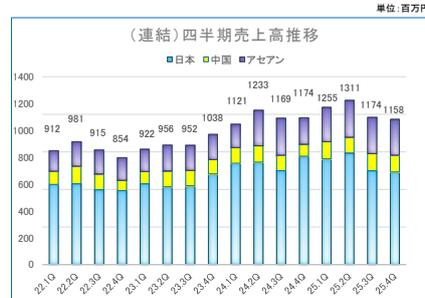
採用先別連結売上高予想です。自動車が 26 億 5,700 万円で、54.2 パーセントを占めており、若干の増加を見込んでいます。光学機器も 10 億 5,600 万円と、増加を見込んでいます。電子部品は横ばい、その他は新規受注による増加を見込んでいます。

合計値としては、売上高 49 億円を見込んでいます。自動車はエンジン関係の売上が減少すると見込んでいますが、駆動部品や安全対策部品、内装・外装部品の売上高はさらに増加すると見込んでいます。

決算説明

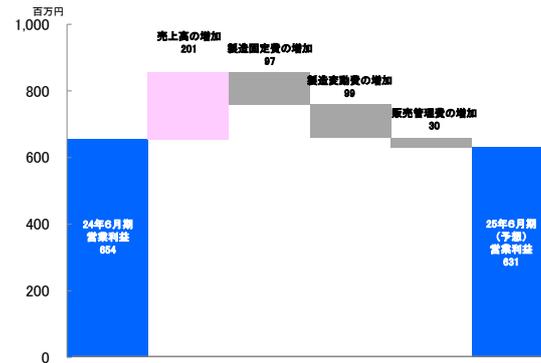
今後の見通し(四半期売上高)

中国は停滞するが、アセアンは好調を継続。  
第3四半期まで各四半期とも前年越えを見込む。



今後の見通しです。四半期ベースで見ると、第1四半期、第2四半期の売上高は12億円を超えています。第4四半期は若干の減少を見込んでいます。内燃機関周辺機器の受注減少があると見ています。

営業利益分析



営業利益分析です。売上高は2億100万円の増加を見込んでいます。減価償却費等の製造固定費、派遣人件費・電力費・消耗品費等の製造変動費がそれぞれ約1億円増加し、営業利益は若干の減益を見込んでいます。

決算説明

研究開発費・設備投資額(連結)

研究開発費は、毎期漸増。大学の研究室と協同研究を行っている。  
22年6月期から生産性向上を目指し、毎期重点拠点を定めて投資を継続中。  
(22年長野ドライーブ、23年愛知事業部、24年群馬事業部、25年大分ドライーブ等)

単位:百万円、%

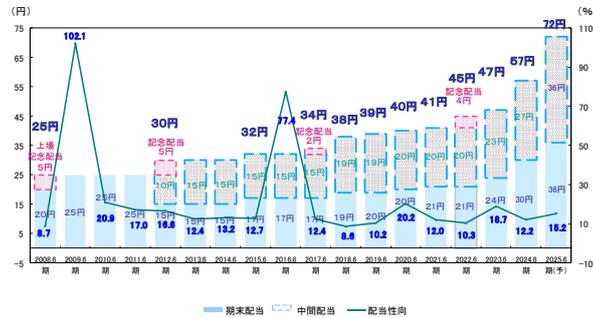
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年		
	6月期	6月期	6月期	6月期	6月期(予想)		
	金額	金額	金額	金額	金額	前増減額	前増減率
研究開発費 (人件費を含む)	95	101	111	117	128	11	9.4
設備投資 (土地、建物を含む)	237	535	880	880	856	-24	-2.7
減価償却費 (繰後償却は定率法を採用)	229	201	294	352	409	57	16.2

研究開発費・設備投資額です。研究開発費はほぼ人件費ですが、若干増加していく状況にあります。設備投資に関しては、2023年6月期に若干増加していますが、そこをピークとして年間の投資額は減ることを見込んでいます。設備投資を毎年継続しているため、減価償却費が増加しています。

株主還元

利益配分の基本方針

将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続実施。上場以来17年連続して前増減額配当が増配を実施。



株主還元です。将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続実施しています。2025年6月期は、72円に増配する予定です。

以降のスライドは、会社概要関連、付属参考資料ですので、ご参考ください。ご清聴ありがとうございました。

## ■ 質疑応答

### ★質問者

お話をお聞きするのが17年ぶりですので、あまり今の状況を明確に把握していません。現在の稼ぎ頭はタイとのお話でしたが、どのような要因でここまで高い利益率が実現できているのか教えてください。

### ■東洋ドライループ 飯野

当社は2010年に、中国に続いてタイに進出しました。タイでは光学部品の仕事を中心にスタートしました。その後、光学関連の会社がタイに集積してきたことにより、光学関連のビジネスが好調に推移したため、今の業績に結びついたと思います。

また、2輪・4輪の仕事も堅調に推移しています。

### ★質問者

カメラ関係のお客さまは、複数いるのですか？

### ■東洋ドライループ 飯野

おっしゃるとおり、複数です。

### ★質問者

最近、特に1社の調子が非常に良いのですが、そちらがメインでしょうか？

### ■東洋ドライループ 飯野

当社は、光学メーカーと直接取引しているわけではなく、光学部品・機器メーカーと取引しています。その部品や機器のメーカーが、複数の光学メーカーと取引しています。

### ★質問者

IPOした頃は、自動車関係においてワイパーブレードがかなり大きかったと記憶しています。このあたりはなにか変化がありますか？

### ■東洋ドライループ 飯野

ブレードの形状などが当時とは変わってきていますので、コーティングの内容は変化しています。しかしながら、生産量に関しては、大きな変化はありません。

## 質疑応答

## ★質問者

今期の業績がかなり上振れています、要因は何ですか？

## ■東洋ドライループ 飯野

自動車関係で言うと、エンジンの形態が多様化しています。そのようなところにビジネスチャンスがあり、新規採用が増加していることが業績に繋がってきています。

また、自動化、ロボット化、AIの導入などにより生産性を向上させていることも要因の一つといえます。

## ★質問者

ももとの業績予想でも、上期下期でいうと減益のかたちになっていますが、今回も修正しなかったため、よりきつい予想になっています。単なる季節性なのか、それとも期中になにか終わるものがあるのかについて教えてください。

## ■東洋ドライループ 飯野

期の始まる前に予測していた内容については、後半に終息していくものがいくつかあると考えて、予想をそのままとしています。修正すべき時が来ましたら、速やかにご説明したいと考えています。

## ★質問者

通常の季節性という観点では、下期にはさほど落ちるわけではないと理解してよいのでしょうか？

## ■東洋ドライループ 飯野

海外においては、春節などのいろいろな要素で工場が止まることもあり、それが後半に影響が出てくることはあると理解しています。それを業績予想に織り込んでいる部分はあります。

## ★質問者

「トランプ大統領の自動車関税が自動車業界、御社に与える影響について、どのように考えていますか？」というご質問です。

## ■東洋ドライループ 飯野

北米では現在、年間1,600万台から1,700万台の自動車が販売されています。トヨタを始めとした日本車の中で占める割合は、600万台を超えているかと思えます。600万台のうち、北米生産、メキシコ、日本から3分の1くらいずつ北米向けに生産されていると認識しております。

仮に、25%の関税が実施されれば日本のカーメーカー及び機器メーカーにとって大きなマイナス要因となることが予想され当社にも影響があります。

**★質問者**

御社では、2年から3年前に、特に自動車関係において加工賃収入に切り替えたと記憶しています。自動車関係は従来、7割から8割ほどあったと思いますが、現段階では5割ほどになっています。

この要因は、単純にシェアを落としているというより、光学製品の売上が上がったから、その分だけシェアが落ちているように見えるという理解でよいでしょうか？つまり、実際には自動車関係以外の新しいものに注力してきたことにより、自動車関係のシェアが抑制できていると認識してよいでしょうか？

全体の部材もあった時の売上と、今の加工賃収入に切り替えた売上について、考え方がかなり難しいと感じています。例えば、従来であればどれくらいの売上になっているかなどを教えていただけると想像しやすいです。

**■東洋ドライループ 飯野**

売上の収益認識基準の前と後で、ということになるかと思います。おっしゃるとおり、収益認識基準の前は、当社が仕入れたものが売り先が限定されていて自由に販売できない場合、仕入れと売上を相殺することとなりました。

手元に正確な資料はありませんが、仮に以前の会計基準であったら、おそらく自動車関連の売上高は倍以上になっていると思われます。自動車の売上は収益認識基準の影響で大きく下がりましたが、実質的な自動車の仕事の割合は以前の数値に近いものとなると思います。

**★質問者**

前の質問に関連しますが、自動車は有償支給が多いのでしょうか？

**●東洋ドライループ 近藤**

財務経理課長の近藤です。おっしゃるとおりです。光学関係には有償支給はほとんどありません。

**★質問者**

光学機器は無償支給なのですか？それとも、自由に売れるのでしょうか？

**●東洋ドライループ 近藤**

無償が多いです。

**★質問者**

光学機器で無償が多いのは、何か理由がありますか？有償か無償かが、業界で分かれるのはなぜでしょうか？

## 質疑応答

## ▲東洋ドライループ 鈴木

取締役管理部長の鈴木です。商習慣が業界によって違うとしかお答えしようがありません。

自動車は、有償支給でサプライヤーに部品を渡して、買い戻します。電子機器や光学機器は、無償支給で部品を渡して、再び加工賃だけを精算します。それぞれの業界によって商習慣が違っていただけです。

会計基準については、3年前だと思いますが、日本の会計基準を世界の会計基準に合わせていこうとする流れから、有償支給については仕入れ売上は立ててはいけないことから、すべてネットで加工賃だけを売上として計上することとなりました。

## ★質問者

有償と無償の実質的な一番の違いは、一時的な歩留まりリスクを負うか負わないかだと思います。そのような理解でよいでしょうか？

## ■東洋ドライループ 飯野

有償の場合は、購入した段階では私どもが管理しているわけですので、購入したものが例えば1万個あって、売る時に欠落していれば、私どもの責任になります。無償の場合にはそのようなことがなく、買ったものを加工して納めるだけというかたちになっています。

## ★質問者

商習慣の違いとは何でしょうか？業界による商習慣の差は、歩留まりのレベルの差に由来しているわけではないのでしょうか？

## ■東洋ドライループ 飯野

歩留まりも一部あるかと思いますが、在庫管理なのかと私は理解しています。

## ▲東洋ドライループ 鈴木

経理的な面で一番影響が大きいのは、資金繰りです。有償の場合は、買ってまた売りますので、その分お金が動きます。無償の場合は動きませんので、その部分を経理的には非常に気にかけています。

## ★質問者

「その他の売上高構成比が増えていますが、どのような商材が、どのようなお客さまに伸びているのでしょうか？」というご質問です。

## 質疑応答

## ■東洋ドライループ 飯野

速乾性潤滑剤が、2割から3割ほど伸びています。速乾性潤滑剤は、部品をいただいて加工を受けるのではなく、材料そのものをお客さまに販売するかたちになっています。また、特に海外のお客さまから、「このようなこともできませんか？」というお話もかなりいただきます。いただいた中で、できるものを取り入れながら、ビジネスを展開しており、それがその他に入ってきています。

## ★質問者

「大分の土地を取得したのは、どのようなお客さまを見越したものでしょうか？」というご質問です。

## ■東洋ドライループ 飯野

新しい工場で、現在引き合いをいただいている約8割が自動車関係の仕事です。北九州にはトヨタ自動車、ダイハツ、日産自動車があります。また、マツダ関連の工場がやや南下してきて近くまで来ています。さらに、本田技研工業のバイクなど、そのあたりの仕事に主に取り込んでいこうと考えています。以上をもちまして、東洋ドライループ株式会社、2025年6月期第2四半期決算説明会を終了します。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp